



たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2018



免疫チェックポイント阻害薬について

腫瘍内科 副部長 津田 享志

京都大学の本庶 佑先生のノーベル医学生理学賞の受賞により、抗PD-1抗体薬に代表される免疫チェックポイント阻害薬の効果への期待に拍車をかけています。本庶先生のノーベル賞受賞の理由は、免疫チェックポイント分子PD-1の発見と、それによるがん治療法の確立にあります。そして、抗PD-1抗体薬だけでなくCTLA-4やPD-L1などに対する抗体薬の開発も行われています。

免疫チェックポイント阻害薬ってどんな薬？

従来の化学療法は、がん細胞そのものを標的として攻撃する抗がん剤が主流でした。それに対して免疫チェックポイント阻害薬は、本来持つ自己の免疫系を活用することで体内のがん細胞を攻撃します。PD-1はがん細胞を攻撃する免疫にブレーキをかけるタンパク質です。抗PD-1抗体は、がんが免疫細胞に対してかけているブレーキを解除することで効果を発揮します。効果が得られる場合には、抗がん剤に比べても長期的に効果が持続することも特徴の一つですが、必ずしも全員に効く訳ではありません。そのため効果を予測するバイオマーカーの研究も進められています。それぞれの患者さんに応じた適切な治療を提案したいと思っています。

現在、悪性黒色腫、肺がん、頭頸部がん、尿路上皮がん、胃がん、腎細胞がん、悪性リンパ腫に使用可能です。そして今後もますます使用可能な疾患が増える予定です。また、抗がん剤は、嘔吐や脱毛など、辛い副作用を高頻度に認めるのに対して、免疫チェックポイント阻害薬は、そのような辛い副作用はほとんどないことも、注目される理由の一つです。しかし、間質性肺炎や劇症1型糖尿病、副腎不全などの自己免疫関連副作用を認める可能性がありますので、当院では、看護師、薬剤師と協力し、チーム医療を実践しています。

免疫チェックポイント阻害薬の今後の展望

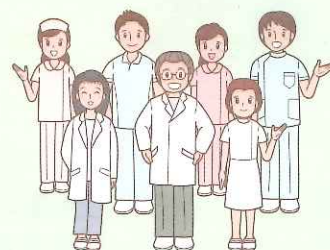
この薬剤を単剤で使用するだけでなく、免疫チェックポイント阻害薬同士2剤の併用療法や、抗がん剤との併用などによる効果も期待されています。そうになると、副作用も多くなる可能性もありますので、より一層チーム医療が大切となってきます。当院における、診療科横断的な診療体制や、多職種との連携は、この薬剤を使用して治療していくのに強みになると考えています。

部門紹介

腫瘍内科

消化器・一般外科、消化器・肝臓内科のバックアップのもと、胃がん、大腸がん、胆管がん、膵がんなどの消化器がんの化学療法や免疫療法を担当しています。外来通院にて治療を行い、有意義な時間を過ごせるためのサポートができたらと思っています。先進医療や放射線治療などが必要な場合には、聖マリアンナ医科大学病院とも連携し、標準治療以上の、それぞれの患者さんにとって最適な治療を提供します。

がん治療にとって最も大切なことは、チーム医療です。看護師・薬剤師・リハビリテーション科・栄養部など、多職種や地域医療機関との連携により、安全と効率を重視した切れ目のないがん診療を目指しています。



会計表示盤についてのお知らせ

平成30年9月18日(火)より、外来会計受付に会計表示盤を導入しました。

今までは、診療費の計算完了後、患者さんをお名前でお呼びしていましたが、システム導入後は、会計表示盤（会計待合のディスプレイ）に会計の待ち状況を表示します。検査・診察が終わられた患者さんは、外来会計受付で会計番号票をお渡ししますので、会計表示盤にご案内が表示されましたら自動精算機でお支払いをお願いします。

※入院費はお取扱いができません。

※診療内容によって窓口での精算をお願いすることがあります。

